

大学図書館の貸出履歴分析

土屋健人

図書館では様々なサービスを提供している。その様々なサービスの中で基本的なものが貸出サービスである。貸出とは、「資料提供の基本的方法であり、図書館運営の原点」とされている。図書館利用者の情報環境がここ数十年で大きく変化している。しかし、この図書館運営の原点となっている貸出サービスを充実させることは図書館運営の発展のために重要である。そのため、貸出履歴を分析することは、図書館の利用状況を把握し、発展させるために有効な手段であると言える。

本研究は筑波大学学生の専攻と貸出の状況について明らかにするため、学群生の貸出履歴データを学類ごとに、学年別、主題別に貸出回数を集計し、専攻分野と貸出の主題分野の関係について先行研究と比較しながら特徴の変化を調査する。また、学生数に占める貸出利用者数の割合を分析し、図書館の利用状況の変化をより詳しく明らかにする。分析したデータを先行研究と比較することで、筑波大学附属図書館の貸出利用状況の変化を明らかにすることを目的とする。

結果として、年度ごとの貸出には減少している傾向がみられた。身分別にみると、大学院生は学群生と比較して多く貸出を利用していた。また、月別の貸出冊数の推移について学群生と大学院生では異なる傾向がみられた。カリキュラムの違いや論文執筆に関わる情報行動の違いが関係していると考えられる。所属別貸出については先行研究と傾向が異なる学類があり、利用状況の変化が示唆されている。貸出利用率についてはグループ化をおこない、このグループが今後どのように変化していくか観察することで、より詳細な利用状況の分析が可能になると考える。

現在、図書館を取り巻く状況は変化し続けており、利用者が求める資料やサービスも変化している可能性が高い。継続した研究を行うとともに、より詳細な項目を分析することで利用状況の変化を把握することが可能になる。貸出利用状況の変化にいち早く対応し、図書館のサービス向上が目指されることが期待される。

(指導教員 逸村裕)